

社会資本総合整備計画
大間々観光地区都市再生整備計画
【平成27～31年度】

・大間々観光地区 都市再生整備計画

事後評価シート

令和3年3月

群馬県 みどり市

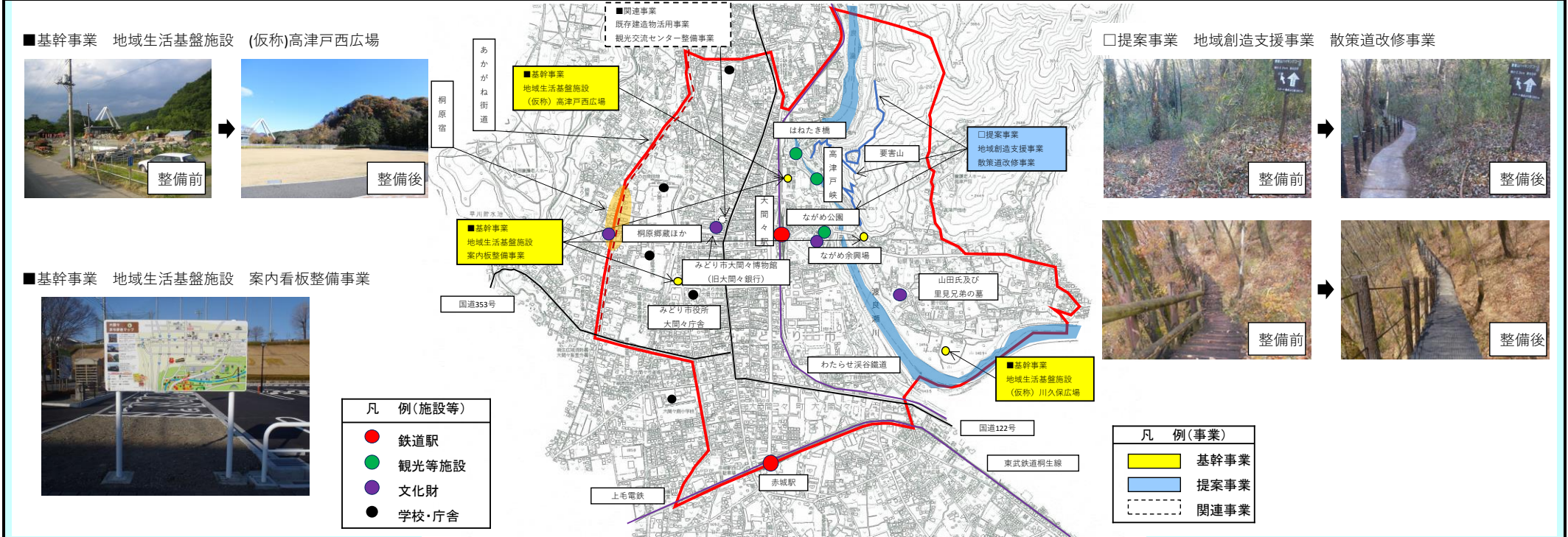
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県		市町村名	みどり市		地区名	大間々観光地区都市再生整備計画							
交付期間	平成27～31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	193.8百万円(A:193.8百万円)							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	A 基幹事業		都市再生整備計画事業	基幹事業	【地域生活基盤施設】(仮称)高津戸西広場整備事業・(仮称)川久保広場整備事業・案内板整備事業								
		B 関連社会資本整備事業			提案事業	【地域創造支援事業】散策道整備事業								
		C 効果促進事業												
	当初計画から削除した事業	A 基幹事業		都市再生整備計画事業	基幹事業	【既存建造物活用事業(中心拠点誘導施設)】観光交流センター整備事業	当初の計画であった観光交流センターは、施設利用方法において、市の運営方針が交付金事業の対象外となることが確定したため、計画からの除外により、事業費42百万円を減額した。		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		B 関連社会資本整備事業			提案事業	-	-	-	-					
		C 効果促進事業							-					
	新たに追加した事業	A 基幹事業		都市再生整備計画事業	基幹事業	-	-	-	-					
		B 関連社会資本整備事業			提案事業	-	-	-	-					
		C 効果促進事業							-					
	交付期間の変更	当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
	変更	-												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	指標1	入込観光客数(市全域)	人/年	2,708,544	H23	3,000,000	R1	モニタリング	評価値	2,331,252	×	あり	評価値は、対象エリアを市全体としており、団体客の減少、大間々祇園まつりの日程が近隣の夏祭りとなったことなどにより、目標値に達しなかった。また、従前値が群馬デスティネーションキャンペーン時の入込観光客数であり、ピーク時数値に近く、結果として目標値も適大であった。新型コロナウイルス感染症が収束するまでの間は、入込観光客数の増加が見込めないため、1年以内の達成見込みは「なし」とする。	令和5年9月
	指標2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	あり	-	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	その他の数値指標1	入込観光客数(大間々観光地区内)	人/年	353,153	H23	/	/	モニタリング	評価値	372,836	/	あり	対象エリアを大間々観光地区に絞り込むと、入込観光客数は2万人弱増えていることから、事業の効果が表れていると考えられる。	令和5年9月
4)定性的な効果発現状況	-													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況								今後の対応方針等		
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
持続的なまちづくり体制の構築	要害山散策道エリアについては、複数の地元ボランティア団体が清掃・植樹・下草刈りなどの活動を実施し、地域の美化や景観形成を通じたまちづくりを実践している。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								● 地元ボランティア団体については、高齢化や担い手不足が懸念されているため、今後もが活動を継続できるような体制づくりを支援する。		

様式2-2 地区の概要

社会資本総合整備計画「大間々観光地区都市再生整備計画」の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 地域資源を活用した観光まちづくり <小目標①> 観光交流センターの整備や案内看板の整備により観光機能を充実させ、交流人口の増加を目指す。 <小目標②> 観光ルートに広場を整備し、また散策道の改修など歩行環境の整備により、観光客の回遊性を高める。	入込観光客数	人/年	2,708,544	H23	3,000,000	R1	2,331,252	R1
	-	-	-	-	-	-	-	-



まちの課題の変化

- ・観光客の利便性向上と観光振興を図るため、観光案内看板を整備し、観光ルートには、憩いの場となる広場の整備や風致公園内(要害山)の散策道の改修を行い、観光客の回遊性を高めているが、交流人口の大幅な増加につながっていない。これら施設や地域の特性を広く周知する必要がある。
- ・入込観光客数について、大間々観光地区においては増加したものの、市全域においては団体客の減少等の影響により大幅に減少している。大間々観光地区を訪れた観光客を市内他地区の観光施設に誘導するような取り組みを行う必要がある。
- ・歴史的な街並みを有している大間々本町通りは、歩道が狭く歩きにくい。観光客の回遊性を高めるための道路拡幅整備等が望まれる。また、良好な景観形成のために、電線類の移設・地中化が望まれる。
- ・毎年、多くの観光客が訪れている大間々祇園まつりや関東菊花大会などといった行事が継続できるよう、後継者の育成や動画配信・SNSなどによる魅力の発信に努める必要がある。
- ・(仮称)川久保広場整備事業については、基本・実施設計まで行ったが、現在策定を進めている「公園・広場・グラウンドの適正配置計画」において施設の必要性を再度検討することとなり、整備が見送りとなった。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- ・観光客の回遊性を高めるための公共交通ネットワークなどの環境整備、事業の促進(歩道の拡幅整備、電線類の移設・地中化、観光案内看板の更新、レンタサイクル事業の促進など)
- ・既存イベントの継続と充実による交流人口のさらなる向上(大間々祇園まつり、関東菊花大会など)
- ・桐生市や日光市などの近隣市との連携による観光施策の促進(わたらせ渓谷鐵道・国道122号による周遊など)
- ・景観計画(策定予定)に基づく各種施策の展開による景観の魅力の向上(景観重要建造物・景観重要公共施設・景観重点地区の指定など)
- ・健康増進意欲の高まりを意識した観光客の取込み(要害山散策道ハイキングのPRなど)
- ・整備効果を高めるためのソフトの充実(ボランティア活動を行う観光ガイドとの連携や観光PR動画の制作など)
- ・(仮称)川久保広場整備事業については、「公園・広場・グラウンドの適正配置計画」において必要と判断された場合は、今後、別事業において整備を実施